

貴重な資源、文化遺産を大切にしまちづくりを進める ～奈良県桜井市三輪地域～

奈良県桜井市には数多くの鎮守の森があり、日本の歴史や文化のルーツにも深く関わっている。その中でも特に三輪地域は、大神神社の神域と保全林の自然景観、山の辺の道の眺望景観、農家と田園、棚田の里山景観といった多彩な景観を多く持っている。

当地三輪には、その貴重な資源、文化遺産を後世に受け継ぐとともに地域の活性化をはかるため、「森とふれあう市民の会」をはじめとした複数のグループが立ち上がり、まちづくり実践活動を進めている。今回の観光まちづくりレポートでは、三輪地域でまちづくりに関わっている団体等を紹介する。

三輪地域の概要

奈良県桜井市三輪地域は、古くは大神神社の門前町として、江戸時代には宿場町として栄えた。まちの中心部を南北に通る JR 桜井線の三輪駅周辺のエリアには多くの古民家が建ち並んでおり、当時の落ち着いた町のたたずまいを今に残している。

また、大神神社の東側には神社のご神体である三輪山がそびえるほか、箸墓古墳や纏向遺跡といった歴史的遺産が数多く点在している。



大神神社のご神体「三輪山」

まちづくり活動の経緯

三輪地域の活性化、まちづくりは、「大和さくらい万葉まつり」に端を発する。桜井市民が主体のまちづくりイベントである「大和さくらい万葉まつり」は桜井青年会議所他、各種青年団体のメンバーが中心となって始められた。そこに奈良県立大学の堀野教授や行政（奈良県、桜井市）が関わり、観光まちづくりの大きなネットワークができあがった。その後、このネットワークが基になって、奈良県との協働事業の採択や「森とふれあう市民の会」、「三輪座」の設立といった三輪地域まちづくりの中核的組織ができあがっていった。

森とふれあう市民の会

「森とふれあう市民の会」の発足は、「NPO 法人社叢学会」による調査事業がきっかけとなった。「NPO 法人社叢学会」は、日本各地の社寺に残る鎮守の森を再評価し、自然を大切にしたい日本古来の文化・伝統を探っており、2002 年、桜井市をはじめ鎮守の森のルーツとされる全国 6 か所の自治体を調査地域として指定した。鎮守の森が大小 100 以上もある桜井市での調査は市民ボランティア約 30 名の協力により行われ、その結果、数々の貴重な巨樹や古木、歴史伝承、文化などが再発見、再認識された。

そこで、調査が終わった後も地域のすばらしい自然や文化遺産を市民に啓発するための組織を作ろうという気運が持ち上がり、2003 年 4 月に「森とふれあう市民の会（代表：栄嶋まゆみ）」が組織された。

同会では、みんなで歴史を秘めた鎮守の森を巡り、その道々の里山で自然の面白さや不思議さを再発見し、自然や歴史により親しみを感じていただくこと、そして、そこでの感動や学びを生活の中に生かしながら鎮守の森を守り、子孫に伝え残すことを目指している。

なお、活動目標と活動内容等は以下の通りである。

【活動目標】

- ① 鎮守の森の貴重な自然や文化遺産を調査し、役割を見直し、再評価していく。
- ② 鎮守の森の自然と歴史を愛する心を育み、守り伝えていく。
- ③ 郷土の自然や歴史・文化に親しむ交流の場を広げていく。

①「鎮守の森を観に行こうかい」の開催

平地や里山にある鎮守の森や古墳などの自然や歴史を巡り訪ねる月例ウォーキングで、過去32回開催。毎年4月～11月の間で行っている。

地元の歴史や文学に詳しい郷土史家や大学の考古学者、埋蔵文化財の発掘調査員、森林インストラクターや植物研究者など多士済々の講師が随行して解説するので、歩きながら自然や歴史に関する知識にふれることができる。また、世代間交流や適度な健康づくりも兼ねており、一日有意義に過ごせることが特徴的である。



例会で案内する森とふれあう市民の会のメンバー

◆次回開催の予定（予定）◆

- 日時：2009年4月5日（日）、時間は未定
- コース：近鉄大福駅→→光尊寺→→御厨子神社→→天香久山・万葉の森→→国常立神社→→天香久山神社→→藤原宮跡→→藤原宮資料室→→本薬師寺跡→→近鉄畝傍御陵前駅
- 参加費：300円

②「みんな森で遊ぼう！」の開催

小学4年生以上を対象とした夏休み中のイベント



「みんな森で遊ぼう！」に参加

トで年1回開催。緑濃い鎮守の森で、自然の不思議や面白さ、歴史の豊かさや奥深さについて学ぶ。様々な体験学習を通して、学ぶことの楽しさを味わい、友情を深めるとともに、貴重な郷土の歴史や自然を愛する心を育むことを目指している。

③鎮守の森をステージとした「秋色コンサート」の開催

上記月例ウォーキングのうち毎年最後のウォーキングは、神社周辺の歴史街道を散策する。その後、「鎮守の森・秋色コンサート」を行っている。県内外からアーティストを招き、荘厳な森の中で響き渡る優しく美しい音色が心を癒してくれる。



鎮守の森・秋色コンサートの様子

【三輪地域における景観まちづくり事業】

同会では東洋ゴムグループの環境保護基金と大阪コミュニティ財団の助成を受け、2007年に桜井市内全域で鎮守の森の再調査を行った。この調査によって、今まで明らかになっていなかった数々の貴重な巨樹や古木、珍樹などの現状をレポートでき、また地域に根付いた文化や伝承などを再認識する良い機会となった。なお、調査結果は「桜井の自然 鎮守の森の調査報告」として冊子にまとめられている。

県との協働事業

10年程前、後に森とふれあう市民の会のメンバーとなる者が奈良県内の主な城下町で活躍しているまちづくりのキーマンや地元三輪の事業者、まちづくりに興味のある建築士などとまち歩きをした際、「何とかこの三輪の魅力を大切にしよう」という意見が多く出された。

奈良県が「県とNPOとの協働事業」(※)を募集していることを受け、「三輪地域における景観まちづくり推進事業」として応募。2005年に採択され、運営は「森とふれあう市民の会」が行うことになった。

※県が設置した「ボランティア・NPO活動推進基金」を活用して、県とNPOが協働で事業実施することにより、県民により効果的で質の高いサービスが提供できる事業提案をNPOから募集するという制度である。

2005～2006年度の2年間の協働事業は、奈良県風致保全課と森とふれあう市民の会を中心に、三輪小学校の児童、畿央大学の先生・学生の協力のもと三輪の町を歩き、景観まちづくりの調査研究を行なった。

その結果の発表会は2007年3月3日に三輪小学校体育館に約250人を集めて行なわれた。小学生の調査・研究の発表によって、地元の大人も三輪の資源の貴重さと魅力を再発見することになった。大学生の発表は、それぞれの専攻を生かしたもので、町並み景観にとけあう新しい町家、古い町家を生かした小劇場、三輪から姿を消した銭湯のコミュニティ施設としての復活、古民家のゆったりとした暮らしの雰囲気を楽しめる、とっておきの隠れ宿などが提案された。さらに、三輪の色彩の再検討など、景観をアピールしていくうえでの重要な要素も浮き彫りとなった。

なお、この調査結果は「三輪地域における地域に根ざした景観まちづくり推進プログラム」と「三輪まち歩きときめきマップ」にまとめられている。

森とふれあう市民の会代表の栄嶋まゆみさんは、



「このマップは、地域の住民だけでなく来訪者にも手にとって見ていただき、地域を楽しく歩くためのツールとして活用していただければ、三輪地域の魅力の新発見・再発見につながるものと考えています」と話している。

三輪座の設立と取り組み内容

その後、三輪でまちづくり活動を展開していくには、まちづくりの拠点が必要ということで意見がまとまり、三輪駅前の古民家を借りることにして、2006年「三輪座(代表者:川端規央)」が発足した。現在のメンバーは10名。



三輪地域のまちづくり拠点「三輪座」

【住民も参加しての取り組み】

景観まちづくりの調査参加者のアンケートの意見を具体化したいという地元住民の声が、「もてなしの三輪駅前広場をみんなで考える集い」に発展した。

社団法人奈良県建築士会の助成を受け、三輪の駅前が、どうすれば「もてなしの広場」として再生できるかの知恵を参加者全員が出し合って集約した。

そして集約した意見を基に畿央大学人間環境デザイン学科学生チームが駅前広場の模型を作りあげた。

【案内看板の作成】

これらの取り組みを通じて、三輪の景観まちづくりの具体的な第一歩を踏み出したのが、「三輪駅前の案内看板作り」である。駅に降り立った来訪者の多くは、駅前にある三輪座に立ち寄り、大神神社へ行く道順を聞いていたことから、まずは案内看板の作成が必要だということになり製作に着手。そして、「もてなしの看板」が2008年10月に完成した。

さらに、同じことなら、この看板の前で、観光ボランティアの人がこのあたりの歴史を紹介したり、近隣の寄り道スポットを案内したりもできるような、いわば地元の魅力を絵解きするような案内看板にしようと、次への新たな取り組みが進められている。



駅前に設置された「もてなしの看板」

【三輪まち開き】

「三輪まち開き」は、三輪座と三輪商店街振興会の共催、三輪座の関係者や畿央大学などの協力により実施されているまちおこしのイベントで、2006年に初めて行われ、その後年1~2回の間隔で開催されている。

直近の「三輪まち開き」は、2008年10月11日、12日に行われた。当日は、三輪駅前に完成した「もてなしの看板」が披露されたほか、造り酒屋の今西酒造での蔵開き試飲会や恵比寿神社での落語会が開かれた。また、ライトアップ「みわ月灯り」も初めて実施された。

【みわ月灯り】

街道筋に残っている昔の町家を人工的なライト



恵比寿神社境内での「みわ月灯り」の様子

アップで浮かび上がらせるイベント。これは、三輪まち開きイベントの一環として行われたもので、夜の静寂に包まれた三輪のまちに映し出された町家の白壁や格子、庭の樹木などがライトアップされ、幻想的な魅力を作り出した。

畿央大学の関わり

森とふれあう市民の会が実施した鎮守の森の調査は「NPO さんが^{くるまざ}俵座」の理事長三井田康記氏（畿央大学教授）を通じて社叢学会から受けたという経緯^{いきさつ}があり、それ以降、畿央大学は三井田氏を中心に、まちづくりの拠点「三輪座」の設立、「三輪まち歩きときめきマップ」の作成、「三輪まち開き」イベントの開催などに協力している。

日本風景街道まほろば

「日本風景街道 まほろば」は、山の辺の道・国道169号線につながる奈良市~明日香村の沿道周辺の風景、歴史、自然など地域の魅力を道でつなぎ、訪れる人と迎える地域の交流を通じて、美しい景観形成、観光振興、コミュニティ形成などの幅広い効果を目指すものであり、活動主体として、風景街道「まほろば」連絡協議会が発足している。森とふれあう市民の会と三輪座は連絡協議会の構成メンバーとして活動している。

おわりに

まちづくり成功のポイントのひとつに「キーとなる人の存在」がある。現在、三輪地域のまちづくりには、森とふれあう市民の会や三輪座など多くの人々が関わっている。今後も、この人達がイニシアティブを発揮し、三輪地域、さらには桜井市のまちづくり活動の拠点として機能していくものと期待している。（丸尾、井阪）

森とふれあう市民の会（代表：栄嶋まゆみ）

三輪座（代表：川端規央）

住所：奈良県桜井市三輪 354

TEL：0744-49-3818（土・日のみ）